

國語議聯とは「国語を考える国会議員懇談会」の通稱にて、設立の平成二十年五月なれば、以來六年を閲す。この間會長は平沼赳夫議員（元経産相）にて一貫すれど、副會長の一人川端達夫議員（元民主黨幹事長）、翌二十一年文部科學省大臣になりて本議連を外る。文科省の大臣、以後今に至るまで、民主黨の田中眞紀子議員を含む五人の大臣、入れ替はり立ち代りたり。この短き六年の、政界の變動甚しかりし中、本議連の繼續せられたることに一人の感慨あり。

本議聯成立して後に大きな刺戟受けたるは、設立一年後の、東京都世田谷區なる船橋小學校の授業參觀なり。平成十六年、教育特區なる制度設けられ、全國の大方の小中學校、「英語」授業の特區なるを選びたるに、世田谷區「日本語」なる教科を推進せんとせり。命名は國語授業すでに存在すればのことなり。教育特區に國語を選びたるは他に、新潟縣の新發田市のみと聞く。時の世田谷區教育長若井田正文の英斷により、「日本語」授業の基本的な考へ方を定む。「言葉」殊に「日本語」を中心に据ゑ、言葉は知的活動の、豊かなる人間性の基盤にて、表現力にも肝要、さらに「日本語」は日本文化の基調なるものなりとす。

その後三年かけて世田谷區独自の教科書を作成、平成十九年四月より小學校全學年にて「日本語」の、中學校にては「哲學」「表現」の授業を開始す。此の獨自なる「日本語」教科書の作成にあたりては、斯文會石川忠久會長の推薦もありて、幼時より漢字を教ふる「石井（勳）式漢字教育」を實踐しきたりし、日本漢字教育振興協會の土屋秀宇理事長、責任者としてその體驗を活かしたる活躍をなせり。兩者とも「國語問題協議會」の役員なり。

土屋氏の紹介により、平成二十一年四月、平沼會長、川端副會長の國會議員ならびに文部科學省の役人を含め三十數名がバスにて船橋小學校に赴き、小學二年の四十人程の學級の「日本語」授業參觀す。授業内容は驚かされしことに漢詩の「春曉」なり。擔任女性教師の周到に準備せる疊一帖ほどあらむ白紙に書かれたる語句の説明などありて讀みに移り、活潑なる四十五分の授業にて九割以上の生徒、此の詩を丸々暗記せるが參觀者にも確認せられ、讚嘆の聲しきりなり。「春眠曉を覚えず 処処啼鳥を聞く 夜来風雨の声 花落つること知る多少」朗々たる暗誦に自信つけたる生徒達の姿、文科省關係者の澁き顔と對蹠的に嬉々たるものなりき。

小學校教育には未だに廃止されぬ「学年別漢字配当表」なるもの存在し、小學一年には僅か八十字の配當あるのみなり。二年の始め頃のことなれば、生徒、漢字は「雨」と「花」しか知らぬ筈なり。漢詩「春曉」に使はれたる漢字は五言絶句なれば二十字、うち二年の末までの配當漢字は、「春鳥聞夜来風声知多少」の十二字、六年の終りまでに「落覚不処」の四字習ひて、遂に「眠曉啼」は小學校にては習はずに了はる。かかる漢字を易々と小學二年の生徒理解せり。

因みに、世田谷區教育委員會發行の「日本語教科書」、一・二年、三・四年、五・六年の三冊なり。いづれの巻も短文、詩、俳句、短歌、漢詩、論語などよりなり、古文等は歴史的假名遣に、發音假名をつけたり。例へば一・二年の「瘦せ蛙」は「かへる」のルビ振り、さらにその外に(え)を加へり。三・四年には小倉百人一首全て載せられ、ルビは蛙と同様の法式をとる。「衣ほすてふ」には「ちよう」なるルビ付されたり。

參觀終はりての質疑應答に當然のことながら文科省の役人、書くはいざ知らず、これほど容易に文字も單語の意味も覺えらるゝものを、教ふるに制限を設けるなどは、生徒を愚と見立たる教育方針ならむやと非難さるるも、役人答へやうもなし。校長の辯に、この「日本語」教育にて一番大變なる思ひしたるは、教へる教員への教育にして、眞に多くの時間を割きたりとあり。戦後教育受けたる教員なれば、宜なりと納得せられたり。

平沼會長、この參觀以後機會あることにこの特區教育の成果を披露し、子供の能力の高さを稱讚すると同時に、文科省の考へ方に反省を促すこと頻りなり。